

第2次宗像市男女共同参画プラン
令和2年度実施状況報告に対する意見書

令和4年3月31日

宗像市男女共同参画推進懇話会

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 支 部 長 | 支 部 長 | 支 部 長 | 支 部 長 | 支 部 長 | 支 部 長 |
| 支 部 長 | 支 部 長 | 支 部 長 | 支 部 長 | 支 部 長 | 支 部 長 |

宗男女懇第3号
令和4年3月31日

宗像市長 伊豆 美沙子 様

宗像市男女共同参画推進懇話会
会長 石山 さゆり



令和2年度「第2次宗像市男女共同参画プラン」の実施状況報告について審議した結果、下記の通り意見を付して提出します。

1. 総括

「第2次宗像市男女共同参画プラン」は今年度で10年目となり、今期で終了する節目の年となります。今年度はCOVID-19により本プランの事業が中止になることもあり、その運営は大変困難な年でしたが、可能な限り取り組みがなされ、尽力されていると評価致します。

令和2年度の事業評価を4つの基本目標別にみると、基本目標1「ワーク・ライフ・バランスの確立に向けた社会づくり」はA評価69.6%、基本目標2「一人ひとりの人権が尊重される社会づくり」ではA評価84%、基本目標3「性別にとらわれない社会づくり」ではA評価53.8%、基本目標4「個性と能力を発揮し、男女がともに参画できる社会づくり」はA評価45.8%でした。今年度、特にポイントが下がったものは基本目標3の「性別にとらわれない社会づくり」であり、毎年低い傾向にあるものは、基本目標4の「個性と能力を発揮し、男女がともに参画できる社会づくり」です。この2つの目標の評価が伸び悩んでいることはすなわち、効果を上げることが難しく、地道に取り組む必要がある目標であり、事業内容や方法について、なお一層検討する余地があるということです。

さらに、これら4つの基本目標はすべて「社会づくり」を目指しています。宗像市では様々な地域の方々の協力により、脆弱化しつつある共同体を保つよう努力されてきたと考えます。しかし、今後COVID-19やあらゆる災害に直面しても、共同体が機能し、目標を達成するためには、あらゆることを想定し、代替案を用意し事業方法について再検討する必要があると言えます。具体的にはこれまで対面で行われてきた啓発活動は、可能な時期に、可能なところからICT導入を試みるなど、いかなる危機的な状況でも事業活動を継続できるような取り組みを準備しておくことが必要です。ピンチはチャンスでもあり、従来不可能であると考えられていたことが、一気に進むことがあります。宗像市がリーダーシップを取り、より状況に適した、具体的な目標設定と実行可能なプランの立案を期待します。

次年度から実行される「第3次宗像市男女共同参画プラン」には、「宗像市は一人一人がお互いに認め合い、社会に参加できる女性が活躍できるまちであり、未来を担う子供たちにそれをつなぐこと」を掲げています。この練り上げたプランを実行し、今後宗像市が一步進んだステージに行くことを期待致します。

2. 基本施策ごとの意見

基本目標Ⅰ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の確立に向けた社会づくり

(1) 家庭生活における男女共同参画の推進

男性の家庭参画の促進に向けた啓発やイベントにとどまっているように思われます。それよりも促進につながる仕組みやそのような場をつくる取組を期待します。事業の目標・事業報告の状況に対する数値記載がないなど、男女共同参画の視点を持って事業が進行しているのかが分かりにくいと感じます。評価方法も検討されるとよいと感じます。

高齢者自立支援について講座内容のバリエーションが増えたことは、評価します。このまま継続的に取り組まれることを期待します。

(2) 両立しやすい職場環境づくり

企業への啓発促進が十分に進んでいないと思われます。

性別や年齢に応じたワーク・ライフ・バランスの推進について社会活動への参加や個人の資質を高めるために余暇の確保・育児・介護への支援体制など啓発を行う必要があります。男性の家庭参画を促進するうえでも企業側の理解は不可欠であるため、コロナ禍であっても事業所への啓発の仕方を検討されるとよいと考えます。

基本目標Ⅱ 一人ひとりの人権が尊重される社会づくり

(1) あらゆる暴力根絶のための対策と推進

DV対策の取組については、相談体制や関係機関の連携が強化されている点では、評価します。今後も、相談しやすい体制づくり、各関係機関との連携、子どもへの支援も引き続き対応してほしいと考えます。事業の目標・報告の数値を記載し、評価すること検討されることをのぞみます。

(2) 生涯を通じた女性の健康支援

乳がん検診の無料クーポン未使用者への受診勧奨やリプロダクティブ・ヘルス/ライツの広報紙を活用した啓発は、評価されます。生涯を通じた・女性の健康の支援について、今後もリプロダクティブ・ヘルス/ライツの取り組みを継続すること期待します。

(3) みんなが安全に暮らせる社会環境づくり

市民との協働による防災・防災活動の推進については、女性委員の参画に関して明確に目標・実施報告していることを評価します。男女共同参画の視点に加え、子どもや高齢者、障がい者についても当事者や専門家の意見を取り入れていくことを期待します。

基本目標Ⅲ 性別にとらわれない社会づくり

(1) 男女共同参画意識の浸透

市が啓発運動のため小冊子を配布していることは評価します。各地域で男女共同参画に取組む団体を市の関係部署が連携し支援していくことで、地域活動が活発になっていくことを期待します。今後もコロナ禍で開催が困難になることが考えられ、感染を予防しながら実施できる方法を検討することをのぞみます。

(2) 教育・学習の場における男女共同参画の推進

子どもの年齢に応じた学びの機会を学校と連携し実施することを期待します。体験学習の機会の確保が困難であれば、代替できる手段の確保を期待します。

基本目標Ⅳ 個性と能力を発揮し、男女がともに参画できる社会づくり

(1) 政策・方針決定過程への女性の参画の推進

女性委員の登用率向上に努めていくことが必要ですが、政治分野も含め、参画の意義や果たすべき役割についての研修など検討されるとよいと考えます。女性の役員の参画の意義を伝える啓発冊子を配布するなど、コロナ禍に対応した効果的な事業の実施を期待します。

(2) 地域・社会活動への男女共同参画の推進

コロナ禍は、コミュニティの存在価値や個々の活動の意義を問い直す機会であると考えます。市とコミュニティが連携して地域の女性リーダーを育成する体系的なプログラムや仕組みが整備されること期待します。

(2) 職域における男女共同参画の推進

実際取り組んでいる職域の事例を紹介し、他の職域へ情報共有していくことができると考えます。県や他の市町村等の自治体での取り組みも参考にして検討されるとよいと思います。

(4) 国際社会との連携

コロナ禍の中では従来の国際交流を行うことが困難であるが、種々な方法を検討しながら、子ども達の学びの機会を提供することを期待します。